

知財の広場

「知財活動事例集」-中小企業の舞台裏-

特許庁は、知的財産活動（知財活動）に取り組む中小企業を紹介する表題の「知財活動事例集」を7月に刊行しました。

本事例集では、知財活動として、特許や商標の権利化だけでなく、自社の強みを発見・整理し、それをどのように事業活動に活用していく視点でも、まとめられています。

知的財産担当者のいる企業だけでなく、いない企業においても、本事例集の下記の「14種の知財活動」の中のそれぞれの項に記載されている「知財活動の背景」を一読した後、興味のある項目について事例内容を詳しくお読みいただければ、参考になることと思います。また、それぞれの項目に関して、キーワードとなる内容を洗い出してみました。

<14種の知財活動>

創出の仕組み・・・創作を促す制度（職場内の改善も含む）のルール
見える化・社内共有/理解・・・自社の目に見えない強みの見える化
市場/他社分析・・・マーケティング・社外人材の活用
考案・開発・改良・・・技術の体系化、J-PlatPatの検索情報の活用
情報管理・・・技術・ノウハウを組織知として整備、秘匿化・公開化の整理
権利化・・・他社の特許情報から新たな良い製品開発へ、複数の知財による保護
侵害対策・・・営業担当を通じた自社知的財産権の侵害情報の収集
侵害情報を活用した顧客開拓
リスク対策（クリアランス）・・・自社で常識と思っている技術でも権利化検討
他社の知財情報の調査
対外PR・・・技術的な価値の見える化（顧客への訴求）、特許と商標での保護
ブランディング・価格設定・・・工夫や価値を見える化し、商標として保護
ルールメイキング・標準化・・・海外でのルール作り
ライセンス・・・リソース不足解消のライセンス、一部ノウハウの秘匿化
アライアンス・・・他企業・研究機関との共同開発と留意点
海外展開・・・海外提携先との情報管理、海外での商標権の取得と活用

「知財活動事例集」URL：

https://www.ipa.go.jp/support/example/document/kigyuu_jireii2024/all_single.pdf

INPIT 滋賀県知財総合支援窓口（TEL.077-558-3443）にご相談ください。

支援担当者 有元 幸郎